

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 31

2010年7月20日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大産学連携広報より、お知らせやイベント情報をお届けします。
<http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>からもご覧いただけます。

★今回の“静大ラボ紹介”は、真田俊之研究室です。

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 「静岡大学第21回共同研究希望テーマ説明会」を開催します
2. 「CIC東京新技術説明会」で発表します
3. 静岡大学浜松キャンパス共同利用機器センター説明会のご案内
4. ビジネス支援相談会のご案内

※問合せ先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更しています。メール送信の際は○欄に@を入れてください。

-
1. 「静岡大学第21回共同研究希望テーマ説明会」を開催します
～浜松キャンパスの若手教員による研究シーズ紹介～

日時 2010年7月27日（火）13：00～16：50
会場 静岡大学浜松キャンパス 佐鳴会館
主催 静岡大学イノベーション共同研究センター
内容

1. インピーダンス負荷SAWセンサ
近藤淳（創造科学技術大学院教授）
2. 電子ビーム励起ナノ光源を用いた高分解能光学顕微鏡
居波渉（若手グローバル研究リーダー育成拠点特任助教）
3. 多孔質体における熱流動特性の解明とその応用研究
柿本益志（工学部機械工学科准教授）
4. 変形可能な移動機械群の基礎的研究
益子岳史（工学部機械工学科助教）
5. 塑性加工用工具・素材の高精度な変形・損傷・破壊予測
早川邦夫（工学部機械工学科准教授）
6. セラミック-金属生体適合性複合材料の開発
藤井朋之（工学部機械工学科助教）
7. プラズマ化学修飾を用いた生体高分子の固定化と高機能化
荻野明久（創造科学技術大学院准教授）
8. 増粘多糖類の熱変性・再性による増粘機構の解明
松田靖弘（工学部物質工学科助教）
9. マイクロバブルを用いた新規有機合成手法の開発
間瀬暢之（工学部物質工学科准教授）
10. 亜臨界・超臨界流体による炭素繊維強化プラスチックのリサイクル
岡島いづみ（工学部物質工学科助教）

参加費 無料

詳細/申込

<http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/center/eventlog/no79.html>

問合せ先 静岡大学イノベーション共同研究センター 担当 大隅

TEL 053-478-1413 E-mail tane8p@cjr.shizuoka.ac.jp

-
2. 「CIC東京新技術説明会」で発表します

日時 2010年7月30日(金) 12:45~16:40
会場 キャンパス・イノベーションセンター東京(CIC東京)
主催 CIC東京、JST
静岡大学の発表 B会場 13:30~13:50
「ヒト型プロレニン受容体の大量生産方法と高度利用技術」
静岡大学創造科学技術大学院 教授 朴龍洙
詳細/申込 <http://jstshingi.jp/>
問合せ 静岡大学イノベーション共同研究センター静岡オフィス
担当 橋詰 TEL 054-238-4631

3. 静岡大学浜松キャンパス共同利用機器センター説明会のご案内

日時 2010年7月23日(金) 10:00~16:00
会場 静岡大学浜松キャンパス 佐鳴会館会議室・ホール
内容 今年4月の共同利用化に伴い学外の皆様への評価・分析
支援を開始するため、説明会を実施致します。
プログラム 10:00~11:00 センターの概要および利用方法
11:00~11:30 分析セミナー(1) 透過型電子顕微鏡
11:30~12:00 分析セミナー(2) 走査型電子顕微鏡
13:00~13:30 分析セミナー(3) 原子間力顕微鏡
13:30~14:00 分析セミナー(4) X線光電子分光
14:00~16:00 センター見学および分析相談
申込み 下記までご連絡お願いします
問合せ 静岡大学浜松キャンパス共同利用機器センター長 村上健司
E-mail rskmura@ipc.shizuoka.ac.jp

4. ビジネス支援相談会のご案内

日時 2010年7月21日(水) 13:00~17:00
会場 浜松市立城北図書館2階 第2研修室
主催 浜松市立城北図書館、はままつ産業創造センター
内容 起業・創業、経営相談など
相談員 馬場博氏(はままつ産業創造センター経営コーディネーター)
問合せ 浜松市立城北図書館 TEL 053-474-1725
E-mail chuo@city.hamamatsu.shizuoka.ac.jp

《 静大ラボ紹介 -16- 》

工学部機械工学科 真田俊之研究室
<http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~ttsanad/>

休暇になると、愛用のニコンを携えて、一人岩登りに挑む青年教員が
いる。学生時代から、岩、沢、雪山と何でも昇ることに挑戦してきたが、
父親になって自分だけの我が身で無いと自覚し、岩に絞ったようである。
蒸気と水の混合噴流を用いた洗浄の応用研究に挑戦する機械工学科の
真田俊之先生である。過日、新聞に「水・水蒸気で半導体効率洗浄」等
の記事が掲載され、最近は多くの訪問企業対応にも追われる。
背景となる研究対象は、混相流、特に分散性の混相流である。基礎研
究においては、多くの関連情報を精査、分析し、論理的な展開へと持ち
込む一方、実験と数値解析との両面から現象を解明し、その成果を産業
界に繋げることに熱い。
「役に立つ基礎研究」と「実用化に至る応用研究」の双方から、「使
える技術創出」を目指す多くの工学部教員のお一人である。
(記：産学官連携コーディネータ 藤田武男)

《 みんなのコラム 》

“新たな産学官協働研究について”

高度な基礎技術の融合化により、時代に適合した製品開発が必然的な条件になると思っています。

大学の知と企業グループの技が協力して、国際的にも評価される製品、産業を生み出す事に成ると確信します。

地域の特色を生かし、いかに総合力を発揮できるかが成否の重要な要素です。

浜松地域は、今まで国の重要政策である「地域結集型研究開発プログラム」「知的クラスター創成事業」「産業クラスター計画」を推進してきました。平成21年度からは、新たに地域中核産学官連携拠点が始まりしました。複数の団体が協力しあって推進する事は、時間がかかり実績を上げる事が難しいのが従来のパターンでした。推進団体のリーダーシップと専任体制が必須条件です。大学コーディネーターと開発型企業グループ側のコーディネーターが、密接な関係を保ち、平等のリスクを持って開発する事が成功の可否になります。又、地域産学官共同研究拠点の浜松医科大学への設置が決まり、平成22年度内に整備される予定です。

これらの事業を自立化して推進していかねばなりません。

コーディネーターの仕事が成果に大きな影響を持ちます。

地域がこれらの問題を如何に対処するか、知識ではなく、知恵を発揮できるかが、カギになります。

(記：静岡大学知的財産マネージャー、
静岡IT0代表社員、浜松商工会議所相談役 柴田義文)

《 編集後記 》

先月24日、約150名の方にお越しいただき「静岡大学次世代ものづくり人材育成センター」の落成式が執り行われました。

静岡大学工学部は、平成18年から文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」で始めた『ものづくり教育はままつ10年構想』を、事業終了後も継続しており、今回の新センター完成で、地域の子供から大人まで、全ての層へのものづくり教育・理数教育をサポートする体制を整えました。

当センターの名称“Center for Creative Engineers”に込められた「ものづくり」への想い。「創造する人材、創造的な研究」を輩出する拠点となるよう地域の皆様にもご支援いただきたいと願っています。

* — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * —

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・
配信中止のご連絡は、sangakukoho50@cjrr.shizuoka.ac.jp まで
お願いします。(↑送付の際は〇欄に@を入れてください。)

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション共同研究センター (IJRC)

編集：原典子

編集責任者：木村雅和

〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1

TEL 053-478-1414

URL <http://www.cjrr.shizuoka.ac.jp/>

* — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * —
Copyright(c) 2008-2010 Innovation and Joint Research Center,
Shizuoka University. All rights reserved